令和 3 年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：竹林 雅喜（たけばやし　まさよし）
■担当地域：黒姫・虫崎・北小浦・見立
■活動開始：2019 年 8 月 1 日
■自己紹介：愛知県出身の竹林です。海に面していない場所に住んでいたので、今の環境は毎日が新鮮で楽しいです。佐渡でも色々なご縁を繋いでいけたら良いなと思っています。よろしくお願いします。

■令和 3 年度の主な活動

・鬼の田植え

農業の担い手不足と、耕作放棄地が増える棚田で、「鬼の田植え」という地元の田んぼに関係する民話をモチーフとした田植えイベントを毎年行っています。地域の子供たちや島外、県外の人たちに佐渡の棚田地域の現状を知ってもらい、販路の拡大や新たな担い手の募集につなげていきたいです。

・古民家改築

空き家を民宿兼、地域の人たちの集まるコミュニティスペースにするための改築のお手伝いをしています。お店はもちろん自販機一つない集落なのですが、近年ダイバーや「100 人盆踊り」などのイベントによって多くの観光客が訪れようになってきました。今年から、宿がオープンし、ダイビングや棚田での農業体験のお客さんなどに利用していただいています。

・佐渡産ホップ作り

耕作放棄が広がっている棚田の新たな活用方法として、ホップ作りに挑戦しました。放棄地の多くが管理ができず放棄されてしまうため、できるだけ、手間をかけずに成長できる作物としてホップを選定しました。生産したホップは、新しく佐渡にオープンしたブルワリーさんの手をかり、クラフトビールを制作し、今後は特産物として利用して行きたいです。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：山田　達也（やまだ　たつや）
■担当地区等：内海府鷲崎地区
■活動開始日：令和元年 10 月１日
■自己紹介：新潟市出身、今年で協力隊任期終了を迎えますが引き続き佐渡ヶ島の魅力をいろんな方に伝えていきたいと思います。まだまだ、ガンバリます！

※写真一番左

■令和３年度の主な活動

・地域の魅力を情報発信・PR 活動

鷲崎地区の魅力を知ってもらうため、昨年 12 月に新潟のホテルとふるさと村で寒ぶりと鬼太鼓を PR するためのイベントを開催した。島外の方々は佐渡の鬼太鼓を初めて見る人が多く、好評でした。
また、鷲崎のホームページを作成中で多くの方々に鷲崎の地域行事・風景などの情報発信に心掛けてます。

・地域行事支援活動

地域人口減少が進む中、鷲崎の村祭り・どんと焼き・盆舟流しなどの行事に取り組みました。
また、集落の美化委員会に所属し　各所の草刈や清掃・植物の育成などの活動を行いました。

・内海府小・中学校運営支援活動

離島留学推進のため、学校説明会や児童の地域活動など、学校ならではの魅力を島外へ情報発信しました。また、空き地や空家の調査をし、地域の受入体制などの準備活動を行いました。
留学生も迎える事ができ、問い合わせも多くいただいております。

令和3年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：本山　裕久 (もとやま　ひろひさ)
■担当地区等：さどの島銀河芸術祭
■活動開始日：令和２年１月７日
■自己紹介：2018年夏に、さどの島銀河芸術祭を訪れ、アートと佐渡の自然風土のコラボレーションにとても魅了され協力隊に応募しました。

■令和3年度の主な活動
・さどの島銀河芸術祭2021　作品制作アテンド
2021年の「さどの島銀河芸術祭」では、初めて公募作家枠が設けられ、国内、海外から5組のアーティストが選考されました。5月からオンラインであったり、代理で候補地へ赴き写真を撮影し画像で案内したり、実際に佐渡市に訪れていただいたりしながら、作品の展示場所や展示方法、制作費用など具体的なプランを相談しながら進めていきました。
8月8日からが会期だったのですが、5月から8月にかけて佐渡島に初めて訪れるアーティストの方々をアテンドし、佐渡各所にアートリサーチで訪れたこと、作品制作の課程に携われたことは、今回、「佐渡」の歴史、風土、民俗、建造物などをテーマにした創作物を各アーティストがそれぞれの見方で展開されたものとして、とても感慨深いものでした。

・FRACTAL CAMP　運営補助
芸術祭の一環として、9月18日、19日にキャンプイベント、ライブパフォーマンスが行われました。多くのミュージシャンやフードコーディネータの方々に参加いただきました。送迎のため、両津港 ⇄ 二ツ亀、大野亀をレンタカーで何往復もしましたが、両津港にて初めて来島される方をお迎えに上がることには、駐車スペースなど毎回とても苦労しました。再整備されるとのことで佐渡の玄関口が、よりオープンなものになることを期待しております。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：逢坂 弥（おおさか　わたる）
■担当地区等：高千地区
■活動開始日：令和２年５月１日
■自己紹介：新潟市出身→旧白根市→さいたま市→
　　長岡市→佐渡
　　協力隊も３年目に入ります
■令和３年度の主な活動

・佐渡食材 PR 拡販活動

生産者と外食産業をつなぐサービスである「フレマル」さんで佐渡食材を使用したオンラインツアーの企画があり、高千や佐渡の生産者さんを紹介したり佐渡の協力隊との連携などを実施しました。
佐渡食材オンラインツアーは現在第二回まで実施され、三回目の企画も相談や提案など継続して協力させてもらっています。
高千食材の PR や登録促進へ向け提案や相談などを継続

・たかちもんて会活動

たかちもんて会の草刈りや、四季の便りの発送拡販素潜りで四季の便り発送用のもずくサザエ採取の手伝いや、養殖ワカメ作業の手伝いなどの準備も実施しました。
その他、ふるさと納税返礼品高千産コシヒカリ『たかち美人』の拡販発送手伝い等を行いました。

・高千地域活動

高千漁港で漁師さんのお手伝いとして、船に乗って漁に出ています。
板引きでのナンバンエビやカニ、ヒラメやブリ釣り等を行いました。

その他、草刈りや祭礼などの地域活動や、YouTuber『高千んもん』への協力等を行いました。

令和3年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：五百川将（いおかわ　たすく）

■担当地区等：放課後活動支援

■活動開始日：令和2年12月１日

■自己紹介：新潟県五泉市出身。佐渡に来る前はJICA青年海外協力隊として南アジアにあるブータンで保健体育の教員として現地の小中学校に勤務していました。佐渡には、教育分野で活躍されている方が多くこの島でなら子どもたちのために私にもできることがあると思い移住してきました。

■令和3年度の主な活動

・放課後子ども教室

島内の小学校で放課後の時間を活用して子どもたちが安心して過ごせる居場所つくりを地域、学校と共にに行っています。各学校で地域の方や地元の高校生から参画してもらいながら活動しています。小学生、高校生、保護者、地域の方々の多世代の交流拠点としての役割も担っています。佐渡の子どもたちの居場所の1つとして令和4年度も継続して活動していきます。

・創るプロジェクト（中学生の探究プログラム）

中学生の「やってみたい」「困っていること」を明確にし、中学生自身がテーマを決めて、実際にアクションを起こすことをサポートしていくプロジェクトを実施しています。主体的に自ら考えていく力や具体的な行動を起こす力の習得や向上を目標にして活動しています。今年度は6名の中学生が参加してくれました。

加えて、令和3年度は中学校の授業を活用してサポートさせていただく機会もありました。今後も柔軟に様々な形で対応していければと考えています。

・出前講座

令和3年度は、小学校、中学校、高校、大学、先生方の研修会など様々な場所や場面でキャリアに関する講座や国際理解教育についての話をしてきました。主に島内向けに話をする機会が多かったですが、島外の大学からも依頼をいただくことがありました。佐渡を知ってもらえるチャンスと捉えて佐渡PRも行っています。講座をしていく中で、島内の方と新たな繋がりができて活動にも繋がっています。

島内のイベント(子ども向けが中心)でのスタッフや知域王の公認コーディネーターとしても活動しています。令和4年度もよろしくお願いいたします。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：奥野　航（おくの　わたる）
■担当地区等：小木町地区
■活動開始日：令和３年２月１日
■自己紹介：九州で生まれ仙台と千葉で育った私にとって、こんなにも春が待ち遠しく感じたのは人生初でした。最近のお気に入りスポットは赤泊の天狗塚公園です。眼下に広がる大海原と越後の山並みは絶景です！！！

■令和３年度の主な活動

佐渡市による“保存対策調査”に同行した際の写真です。こちらの建物は明治 14 年築であることがわかりました。時計店の看板ですが、昔はたそしち屋の屋号で昆布巻き（絶品！）を売っていたそうです。“重伝建”に選定されると建物は制度で守られていきます。しかし、そこに住む人の暮らしを伝えていくことこそが重要であると感じ聞き取りを進めています。

小木小学校の４年生に町並みの良さを伝える授業を実施しました。ある女の子が「教えてもらった駒つなぎ（牛を留めておく輪）を帰り道にほかの場所でも見つけました」と報告してくれたことが嬉しかったです。授業参観では親御さんに対して自分たちでガイドを行うことができました。その頼もしい姿を見て、将来はきっと彼らが町並み保存の大きな力になってくれるはずだと感じました。

小木民俗博物館（旧宿根木小学校）を利用して、“小木のこと知らNight!”というイベントを実施しました。何かしらに詳しい地元の方に先生役を担っていただき、佐渡や小木について学ぶひとときでした。写真はカッパのスジワタシという昔話の語りです。企画を通して、素晴らしい場所（夜の博物館や白山丸）と面白い人（佐渡汽船マニアの先生も！）がたくさんある・いることを再発見できました。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：小森　美紗（こもり　みさ）
■担当地区等：新穂潟上地区
■活動開始日：令和３年４月１日
■自己紹介：佐渡の食や自然の豊かさ、鬼太鼓などの郷土芸能やわら細工などの手仕事が残っているところが好きです。
　たまに、佐渡の食材を使ってインドカレー屋さんをやっています。

■令和３年度の主な活動
・トキのエサ場づくりの活動

①ビオトープづくり体験の受け入れ（潟上水辺の会）
　潟上集落では、トキに関する活動が盛んに行われており、トキの餌場となるビオトープづくりの体験に島内外の子どもたちを受け入れています。
　コロナ禍ということもあり、島外からの受け入れは少ないですが、島内の小学生がたくさん体験に来てくれました。

②自然栽培の米づくり（地域有志、若者農学研究会）
　佐渡のすごいところは普通に「自然栽培の米づくり」が行われているところです。無農薬有機栽培されていた田んぼが使われなくなるとのことで、ぜひやってみたいと初年度から地域の方の協力を得て自然栽培の米づくりを始めました。
　紹介もあり、島内在住の大学生とフリースクールの有志組織である「若者農学研究会」のメンバーのみなさんとも一緒に米づくりに取り組むことに。苦労もありましたが、無事、たくさんのお米が収穫できました。
　せっかくなので、わらを活用したいと、わらつとの「納豆づくり」や「わら細工」の鍋敷きづくりを行ったほか、今後は大豆を栽培して、自分たちの作ったお米で麹を醸し、味噌づくりなども行いたいと考えています。夢は膨らみます。

・多世代交流拠点づくりに向けての活動

①「子ども第三の居場所づくり事業」の申請・助成決定

潟上地域では、「潟上未来会議」という若者からお年寄りまでで地域の未来について考える会議を運営し、定期的にミーティングを行ったり、集落全体での話し合いの場を設けています。その会議をきっかけに、以前から、「利左衛門（りぜむ）」という古民家横の広場に地域の人が手作りの遊具を設置するなどの活動を行ってきました。しかし、空き家の老朽化が進んでいたところ、日本財団の「子ども第三の居場所づくり事業」に申請し、佐渡島内の子どもを中心に誰もが気軽に集える居場所を作っていこうという動きが始まりました。何度も話し合いの場を設け、協力者なども募りながら、助成の申請をした結果、助成が決定しました。今後、空き家の改修を行い、事業を運営していくための取り組みが進んでいきそうです。

②地域の空き家「利左衛門（りぜむ）」やその隣の広場での活動

地域での子どもの遊び場をつくる動きを加速させるため、新たな遊具（竹のジャングルジム）の設置や、遊具の補修などを行ったほか、木工のスプーンづくり体験、椅子づくり体験などを行いました。

・生椿を守っていくための活動

①ボランティア有志組織「生椿結の会」の結成、草刈りなどの活動

生椿（はえつばき）は、日本産トキが最後の頃まで生息したと言われているトキの聖地のようなところです。今は廃村となり、高野毅さんや数名の方たちで棚田や美しい景観などを守っておられます。

しかし、高齢化が進んでおり、「若い力でなんとかできないか？」との声をいただき、有志でボランティアの草刈りを行うとともに、生椿の自然を味わってもらい愛着を持ってもらえるような活動を始めました。結果、これまで生椿で何か自分もできないかと思っていたが、きっかけを作ってもらえて嬉しい。とか、生椿に行ってみたかったが初めて行くことができた。などの声をいただいています。

②生椿の旧住人への「聞き書き」を行う「聞き書き講座」の運営

生椿は平成元年に廃村となり、かつての暮らしを知る人も高齢化するとともにわずかとなっています。

当時の暮らしの姿を残したいと、生椿結の会のメンバーを中心に、インタビューの一人語りのままに編集した文章を作成する「聞き書き講座」を企画し、運営しています。

結果、17名ほどの参加があり、現在、グループに分かれてインタビューを実践中です。今後、インタビューを編集し、冊子化して、いろんな方に読んでいただけるような形にする予定です。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：菊池　猛（きくち　たけし）
■担当地区等：宿根木地区
■活動開始日：令和３年４月１日
■自己紹介：東京都東村山出身、S５２．１０生まれフランス料理歴25年。父の生まれ故郷である佐渡島で独立を目指して活動中です。川崎では料理を通じた地域活動をしていました、その経験を活かしこれからも頑張ります！

■令和３年度の主な活動

〇お試し住宅の整備

どこの地域でも今問題となっている空き家問題は宿根木でも同様です。昨年度は２棟の空き家の残置物の片づけをしました。2022はこの２棟をお試し住宅に登録して、移住促進の為に活用していきます。宿根木では特に、移住者マッチングに力を入れていきます。隊員任期中に不動産取引士の資格を取得目標とし、専門性を高めていきたいです

〇地域資源を生かした商品開発＆体験観光

佐渡の文化を理解するための１年でした。
まだまだ知らないことがあるので、いろんな地域に勉強しに行きたいです。また、地域課題を解決するために文化×産業×観光×学び×移住促進と多岐にわたろ連携が必要だという事を知りました。より理解を深め地域に貢献したいです。

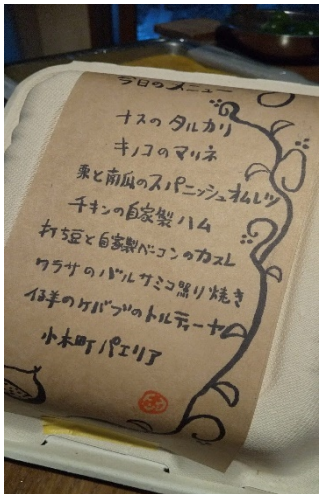
宿根木・沢崎の岩のりで作る、板のり体験

ゆきちから（小麦）とビオレ（黒イチヂク）を使ったピザ

佐渡産小麦ゆきちからを使ってお菓子パンなどを作り地域の方に楽しんでいただきました。割とご年配の方は佐渡で小麦が生産されているのを知らなかった、と聞いてびっくりしました。水田の転作・休耕地の利活用の為の１つの手段になればと思ってます。農家さんの明るい未来の為新規就農者を増やせる、魅力ある産業の道のりは険しいですが料理人として、できる限りのことをして行きたいと思います。

〇中間就労支援

料理人としてもともと活動してました障がい者支援。私たち職人の持つ技術というのは、生産して販売する以外にも、その技術を必要とする人達に伝達することも重要な仕事と考えてます。地域で仕事や役割を獲得したい若者たちに勇気と自信を持ってもらうための活動です。料理以外の分野とも連携し、個々の持つハードルをみんなで乗り越える社会づくりにこれからも貢献し続けたいです。



チャレンジカフェ
みんなで作ったお弁当のメニュー

〇食育活動・こどもレストラン

プロの監修の元、料理教室で教えたシュークリームを
販売まで自分たちでやってみるという企画

佐渡に移住して気づいたことは、子供が少ない、学校が少ないこと。でもその反面、学校または学校外での子供向けの学習アクティビティが割と充実していると思いました。それでもまだ、全域とは言い切れないのが現状だというのも分かりました。教育・学びの多様性を親の立場としても増やしてあげたいと願っております。自然豊かで文化ある島だからこそ、明るい希望を、夢を持てる社会体験を必要としているのではないか、と実感し活動に繋げています。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：江龍田　崇大（えりゅうでん　たかひろ）
■担当地区等：ふるさと納税推進(佐渡市地域振興課)
■活動開始日：令和３年４月１日
■自己紹介：出身:新潟市
父親が旧両津市出身という縁から、
2021 年３月に、妻と２人で佐渡へ移住（孫ターン）をしてきました。
■令和３年度の主な活動

・ふるさと納税の現状

佐渡市では、平成 20 年度よりふるさと納税を開始しております。直近の平成 30 年度からは、毎年１億円ずつ寄付額が増加し、令和２年度では 3.3 億円のご寄付を全国の皆さまからいただきました。さらに私が着任した令和 3 年度も、前年度をさらに上まわるおよそ 3.9 億円のご寄付をいただいております。

① 新規事業者 20 社・新規返礼品 179 点を追加しました！

返礼品の登録数を増やすべく、着任後の春・夏は、すでにご協力いただいている島内 120 の事業者様を訪問して商品の掘り起こし・改善をしました。また、秋からは、新たにふるさと納税にご興味をお持ちいただけた事業者様へ、制度のご紹介にお伺いをしました。令和３年度は、20 の新規事業者様に新たに参画いただき、全体では 233 点の新規返礼品を追加いたしました。

② 寄付者の方へ情報発信をしています！

＼祝／『佐渡島(さど)の金山』世界遺産推薦決定記念　～佐渡金山ゆかりの返礼品をご紹介～

ふるさと納税の寄付の使い道としても応援いただいている「佐渡島の金山」の世界遺産登録について、令和４年２月１日にユネスコへの推薦書の提出が正式決定されました。
今後は、佐渡島の金山が貴重な文化遺産として評価され、次世代へその価値を継承し、「日本の誇り」として皆様に愛されるよう、令和5年の世界遺産登録実現に向けて取り組んでいきます。

祝『佐渡島の金山』
世界遺産推薦決定！

■「佐渡島の金山」とは

寄付者の方に、魅力や価値が伝わるように広報活動もしています。ふるさと納税の申込みができる Web サイトでは、秋に旬を迎える果物特集、また「佐渡島の金山」世界遺産推薦決定を受けて、金山にゆかりのある返礼品を紹介するなど、時期に合わせた情報をお届けしています。さらに 12 月には、上越市「無印良品」・新潟市「ホテルイタリア軒」で行われた物産イベントに出店をしました。佐渡に興味をお持ちいただいているお客様と直接お話することで、より寄付をしていただきやすい環境づくりに努めました。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名:山本　拓実（やまもと　たくみ）
■担当地区等：達者担当
■活動開始日：令和３年４月１日
■自己紹介：岐阜県出身で海なし県で育ちました。
無人島生活という番組が好きで島に住んでみたいという気持ちがあり佐渡にきました。よろしくお願いします。

■令和３年度の主な活動

1.稲作、ゴーヤ、ブドウ、椎茸などの農作業の補助

1年間を通して稲作、ゴーヤ、ブドウ、椎茸など多岐にわたる農作業を補助しました。私は農林高校でブドウを専攻しておりシャインマスカットの勉強をしてきたので達者のブドウの管理はほぼ全て任せて貰えました。仕事を任せて頂いたので責任感を持ち生産～販売まで行いました。去年は実の肥大化には成功したのですがブドウの房の大きさを小さくしすぎたのが課題でした。達者のシャインマスカットはかなり土壌がよく何もしなくても育つため今年はもっと美味しく作れるよう頑張ります！！

2.冬場のミニ映画館

今年は私が佐渡に来て初めての冬でした。毎日のように強風が吹き晴れる日もほとんどありませんでした。(こんな時に娯楽があれば良いのに)と思い集落の方が楽しめる活動をしたいと考え(飛べダコタ)の映画鑑賞会を開きました。これからも何か集落に貢献できそうな活動を考えて開催したいと思います。

3.スマート農業の導入

農地などの情報をデータ化したり問題点を１つの場所にまとめる事で持続可能な農業を目指します。また、１つ１つの農地により問題点や特徴が異なるためこの(Z-GIS)というサイトを活用して情報をまとめていっています。現状は農地に対する人手が足りずかなり大変な思いをして農地を守る方々を見て行きました。今年はこの課題を解決できるよう、みんなが楽しく農業をやれるよう活動していきたいと思います。

令和3年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：宮嶋 麻生（みやじま まい）
■担当地区：松ヶ崎・岩首地区
「子どもの元気は地域の元気プロジェクト」
■活動開始日：令和3年4月1日
■自己紹介：愛知県出身（両親共に新潟県東蒲原郡出身）

佐渡に惚れ込んだ叔父の影響で佐渡旅行
「また来たい！！」と熱望する息子の想いに寄り添い3度来島し移住を決意
幼稚園、保育園、小学校、森のようちえんにて 実務経験あり
親子共に 楽しいこと 美味しいもの 面白い人 自然が大好き

■令和3年の主な活動

☺松ヶ崎小中学校へ移住希望者対応

①移住希望者メール問い合わせ対応
②移住希望者学校見学対応
③移住希望者空き家見学対応
④移住希望ご両親の仕事相談、紹介
⑥松ヶ崎の遊び場紹介、交流

☺みんなの遊び場企画

①地域住人に“一緒にあそぼう会“企画・実施
（海遊び、花火、シャボン玉遊び…）
②みんなの遊び場づくり勉強会を企画・実施

☺空き家探し整備

☺放課後子ども教室

（松ヶ崎小には学童保育がありません）
①毎週金曜日、校庭で思いっきり遊んだり、ロケット飛ばし、焚き火、おやつ作り、ボードゲーム、虫取り…子どもたちが主体となって楽しく過ごしています
②一斉下校の月曜日や休日に小中全校生徒で過ごしています。子どもたちのやりたい事を大切に、異年齢の交流の場としてかけがえのない時間となっています（模型教室、スポーツ大会、釣り大会、卓球、宿題、読書、カードゲームなど…その時によって変わります）

松ヶ崎小中学校、保育園に4家庭合計6人のお友達が増えました！！

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：村山 凜太郎（むらやま　りんたろう）
■担当地区等：佐渡市岩首地区
■活動開始日：令和３年４月１日
■自己紹介：新潟県十日町市出身。大学の際に佐渡市に実習で訪れて以来、佐渡の里山の魅力に惹かれ岩首昇竜棚田のある岩首地区で棚田の保全と活用に取り組んでいます。

■令和３年度の主な活動

<u>①岩首集落の暮らしを体験し、発信を行う</u>。

岩首集落の一年を通した暮らしを体験することで集落の行事や棚田の作業を岩首集落の皆さんがどんな思いや苦労をしてきているのかを体感しました。特に、海や棚田などの集落の資源の管理や生産に関わることで、実際の集落の現状を知ることにも繋がり、その中にある昔ながらの暮らしの良さやその暮らしを残していくのかを考えるきっかけになりました。その他にも祭りや道普請などをはじめとする多くの集落行事に参加をさせていただくことで岩首集落の昔ながらで魅力的な暮らしを体験しました。その中で岩首の暮らしや棚田の取り組みを知ってもらうためにSNSでの発信などやエコプロなどのイベントへの出店などを行い、岩首を知ってもらう活動を行いました。

<u>②岩首昇竜棚田を活用した地域活性化の取り組み</u>

棚田はその特殊な地形により生産性が低く、お米だけを生産するだけでは存続していくことが難しい現状です。そのために棚田米での交流事業をはじめとした棚田＋αとなるコンテンツ作りに取り組んでいます。交流事業であれば、スノーピークなどのサポート企業さまとの田植え、稲刈りイベントの実施や島外からの大学生の田んぼの体験受け入れなどを実施しています。加えて、棚田を活用した取り組みとして棚田キャンプなどのコンテンツなどの実験的な実施を行いました。

③岩首昇竜棚田の環境整備と保全

　現在、棚田は生産者の高齢化や担い手の不足などの厳しい現状にさらされています。その中でも岩首昇竜棚田はSNSや口コミの影響もあり、島内外問わず多くの人から岩首昇竜棚田に来ていただけているありがたい現状です。一方で、棚田は農地であり多くの人が訪れることによる車両によるトラブルや棚田の受け入れ環境的な問題が発生しています。棚田の存続に関わる取り組みをやる一方で棚田を活用して発生するトラブルなどをできるだけ少なくするために、棚田への案内表示や寄付箱の設置などを行うことで持続的に人の訪れられる環境整備を行いました。それに加えて、棚田を訪れるためのルールなどを作成して集落と話し合っていくことで棚田を集落で残していくためにどうしていくかを話し合うきっかけなどを作っていくことが今後大切になると考えています。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：棚村 麗乃（たなむら れいの）
■担当地区等：みなとオアシス佐渡両津担当（両津港周辺地区）
■活動開始日：令和３年５月１日
■自己紹介：新潟市（旧白根市）出身。遠方から佐渡に移住してきた他の隊員と比べると少々インパクトに欠ける出身地ですが、大学時代はマレーシアで４年半程生活していました。色々なことに挑戦しながら雄大な自然でリフレッシュできる佐渡が大好きです。

■令和３年度の主な活動

①地域を知るための活動

私のメイン業務は『みなとオアシス佐渡両津』のイベント企画・運営補助ですが、着任後もコロナ禍の影響が強くあったため、移住当初は両津地域や佐渡島内で開催されていたイベントに顔を出し、挨拶をしたりしていました。地域活性活動をしている方々や元気のある地元の方々、移住者の皆さんと出会えたので、この繋がりを無駄にせず、今後両津等で企画するイベントに活かしていきたいと思います。

（左）UMAMI マルシェの様子（中央）両津港の隠れスポット「朱鷺神社」（右）相川クリーン活動に参加

②チャレンジショップ（空き店舗活用事業）への出店

両津商工会様の勧めで、両津夷商店街の中にある空き店舗を活用したチャレンジショップ事業に参加しました。どんなお店になるかさっぱり計画できないほど短期での企画・運営だったので、「とっちらかっている、ごちゃごちゃしている」という意味の『がちゃへご』という佐渡の方言から GACHA HE GO MARKET と名前を付けました。

店内では柿農園のオリジナルグッズや佐渡ジオパークグッズ、達者米など、あまり自分の居住エリア外には出歩かないという地元の方々が初めて知るようなアイテムを揃え、販売しました。また、店内には『佐渡や商店街にあったら嬉しいお店』『生活で困っていること』『こんなことがしたい！』など、なんでも書き込めるホワイトボードを準備。お客様として来ていただいた皆様には今後の活動において大変参考になるご意見を書き込んで頂きました。

また、佐渡の新しいお土産の考案として、相川の夫婦岩観光様のお塩を使用したバスソルトを製作。今後の商品化は検討中ですが、商品化にご協力いただいた夫婦岩観光様には大変感謝しております。

（左）GACHA HE GO MARKET チラシ（中央）書き込みでびっしりのホワイトボード（右）めおとバスソルト

③みなとオアシスイベントの企画・運営

・あいぽーとガーデン（2021 年 10 月 23 日～31 日）
・おんでこイルミネーション（2021 年 12 月 19 日）
・食と芸能の祭典 オイスターフェア（2022 年 3 月 19 日～20 日）
の企画と運営に携わりました。

運営再度の様々な問題点は挙がっていますが、イベントが少ない佐渡島民の皆様には楽しんで頂いているコンテンツのひとつなのだなと感じた一年でした。ただ、『イベントをすることが目的のイベント』だと今後の展開として厳しいと思っているので、みなとオアシスが何のために作られた団体で、何のためにイベントをしているのかを周知させていくことが今後の課題だと感じています。

④佐渡ジオパーク中級コースの受講

令和３年度佐渡佐渡ジオパーク中級コースに通い、中級コース卒業後はジオパークガイド養成講座を受講し『佐渡市ジオパーク準認定ガイド』の資格を GET しました。
ジオパークは単純な地質学ではなく、地形がどういった形で人の生活に影響しているのかを学ぶ学問です。最初はそれこそジオパークの意味すら分かっていなかったのですが、始まってみると佐渡の全てに繋がっていくことが本当に面白く…！
ぜひ皆様も佐渡ジオパークの魅力にハマってみてはいかがでしょうか。

（左）尖閣湾揚島遊園の流紋岩（りゅうもんがん）（中央）貝や葉の化石を探しました（右）準認定ガイドの３人

⑤SNS での発信

上記の情報を含め、佐渡の魅力をもっと知ってもらおうと、SNS での発信に力を入れています。Twitter（@tanachan_sado）では日常生活を中心に、Instagram（@jalanjalan_sado）では観光客におすすめしたい佐渡のスポットを読み物形式で発信。元々の佐渡のファンはもちろんですが、できるだけ島外の方や、まだ佐渡を知らない方に佐渡の魅力を伝えるお手伝いができたらと思います。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：伊藤　英敏（いとう　ひでとし）

■担当地区等：金井地区

■活動開始日：令和３年７月１日

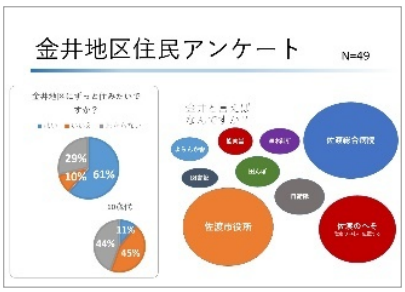
■自己紹介：佐渡市の旧金井町大和田集落の出身です。
大学入学と同時に佐渡を離れましたが、定年をきっかけに故郷である佐渡に戻りました。私は、金井地区の「支所･行政サービスセンター拠点化事業」を推進する役割で活動しています。また、集落では隣組長として取り組んでいます。

■令和３年度の主な活動

・地元を知る活動

佐渡市の理解から始まりその行政活動の内容理解、金井地区の理解や特徴把握、金井地区が抱えている課題や他の地域と金井地区との立ち位置の違いなど丁寧に教えていただき理解してまいりました。さらに地域支援員からのサポートをいただきながら、各集落を実際に訪れその地域を理解することを行ってまいりました。

・地域が抱える課題を知る活動



金井地区の中で無作為に選んだ各年齢層の方々へアンケートを実施させていただきました。このアンケートの回答は、地域の実情をとらえるための貴重な情報となりました。この内容は、令和４年度の金井地区向け活動計画となる企画案をまとめるために大変役立ちました。

・令和４年度の企画実現に向けた活動

新年度の地域づくりの活動として集落活動につながること、金井地区に長くお住いの方々や新たに移住された方々が共に出会う場所を作るため、金井地区を中心に地域で活発に活動されている事業者や移住者の中で９ヵ所の方々と意見交換を行いながら具体的な活動計画へブラッシュアップをしてまいりました。更に他の方々とも意見交換をさせていただきながらより良いものへまとめる作業を行ってまいります。

新年度には、具体的な計画実現に向けて取り組んでまいります。

令和３年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：丸山　良輝　(まるやま　よしき)
■担当地区等：佐渡市役所企画課政策推進係
　　(佐渡教育コンソーシアム担当)
■活動開始日：令和３年 12 月１日～
■自己紹介：出身は長岡市（旧寺泊町）で、以前は新潟県と北海道で公立高等学校教員として勤務してきました。幼い頃に何度か寺泊―赤泊航路で佐渡島に訪問した思い出があったり、高等学校教員の頃にも佐渡市内の高等学校に勤務する機会があったりと、佐渡市とは不思議なご縁を感じています。

■令和３年度の主な活動

・高校と地域の連携

島内の高等学校・中等教育学校の要望に応じて学校と地域の企業、団体等をつなぐことで、子どもたちに「より良い学びの場」が提供できるよう、高校生の探究的な学習の支援や高等学校での進路ガイダンスのコーディネート等を行いました。

・高大連携

島内の高等学校・中等教育学校の要望に応じて大学によるＳＤＧｓについてのオンライン講義をコーディネートしたり、高大連携ワーキンググループで高大連携のあり方や高校のニーズや大学の提供できるコンテンツ等の情報共有のしくみづくり等を議論したりしました。

・島留学の推進

高等学校での生徒の全国募集(島留学)に向けて、関係機関との協議や学校寮の検討、ＨＰやガイドブックの掲載情報等の情報発信の準備を進めてきました。今後は令和５年度からの生徒募集に向けて受入体制の構築、情報発信のあり方について検討を進めていきます。

越えて、行こう。地域みらい留学(c-mirai.jp)より引用

令和 3 年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：菅原　亮（すがわら　りょう）
■担当地区等：トキの水辺づくり協議会担当
■活動開始日：令和 4 年 1 月 1 日
■自己紹介：東京都国分寺市から来ました。何度も佐渡を訪れる中で佐渡の豊かな自然と共に暮らしていきたいと思いやって参りました。よろしくお願いいたします。

■令和 3 年度の主な活動

・　トキの水辺づくり協議会のこれまでの取組を知る活動

協議会のこれまでの活動に関して、既存の資料を通して学ぶとともに、どういう思いで活動されてきたのかについてインタビューを実施しています。今後の協議会の活動を共に考えていけるように情報収集を日々心掛けています。

・トキの野生復帰のための環境整備を舞台にしたエコツーリズム企画

2008 年のトキの野生復帰から 14 年が経ちましたが、新穂潟上のトキ交流会館を拠点にトキの生育環境整備として続けている草刈りやビオトープづくりをテーマとして、今年に入りワーケーションや企業研修、スタディツアーなどの企画が生まれています。島内外のファンづくりを通してトキとの共生を持続可能にしていければと考えています。

・野生生物との共生について学ぶための北海道羅臼町視察

　シマフクロウや大鷲、シャチなどの多様な野生生物が生息する北海道知床半島の羅臼町に視察に行きました。野生生物を貴重な観光資源として活用する動きと共に、野生生物の生育環境を維持することの難しさが現場にはあることを学び大変参考になりました。